

# ケーブルテレビの“強み”をさらに発揮！

メディアキャストからの新提案

『自主データ放送』で地域密着情報を強化

## 「DataCaster-Suite」が実現する デジタル放送時代の新サービス

ケーブルテレビ“特有”の強みは何か——

限られた地域が必要とする細かな生活情報を、慣れ親しんだテレビを通じて発信できることです。

災害時における避難情報はもちろん、ゴミ収集日情報、住民のお悔やみ情報、夜間緊急医療情報など、住民が求める情報は多様です。これまでは情報提供の手段として「(アナログ)L字放送」を利用していましたが、欲しい情報をいつでも見ることができないという課題がありました。

この課題を解消するのが「デジタルL字放送」とも呼ばれる『自主データ放送』で、視聴者が欲しい情報を、必要なときにいつでも簡単に見ることができるものです。

『自主データ放送』は、デジタル放送時代を迎えたケーブルテレビの画期的なサービスとして注目されています。

(株)メディアキャストは、この『自主データ放送』を支援するシステム「DataCaster-Suite (データキャスター スイート)」を発表しました。

行政からの  
お知らせ



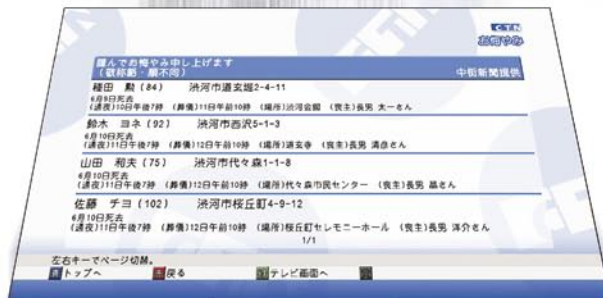
番組紹介



トップ画面



ごみカレンダー



お悔やみ情報

# 知りたいとき、タイムリーに情報をテレビから入手できる 視聴者本位の『自主データ放送』

## リモコンの [d] ボタンを押すだけ！ 『自主データ放送』の4大特徴

『自主データ放送』とは「視聴者が見たいとき、知りたいタイミングで、テレビに表示できる文字と静止画による情報画面」です。画面イメージは、緊急災害時や選挙速報番組などで利用されるL字放送のようなものですが、リモコンの [d] ボタンを押すだけで、いつでも情報画面を呼び出すことができます。

ニュースや天気予報はもちろん、行政からの各種生活情報などを、視聴者が本線映像の編成とは関係なく好きなタイミングで取得できるという視聴者自身による双方向サービスの一つです。また、行政の議会中継などでは映像に連動した情報を提供することができます。

### ● 『自主データ放送』サービスの特徴

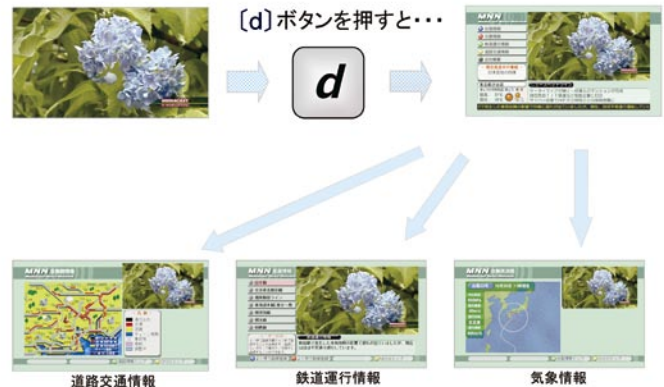
- ① 視聴者は欲しい情報を、テレビからタイムリーに入手できる。
- ② 災害緊急時は視聴者にタイムリーに告知するPUSH型サービスもできる。
- ③ HTMLベースのサービスと違い、映像本線サービスと連動しながら情報提供ができる。
- ④ PCを使うことなく、テレビを通じてお茶の間に情報を配信できる。

## コミチャンのトップ画面を 地域のポータル(玄関)画面化もできる

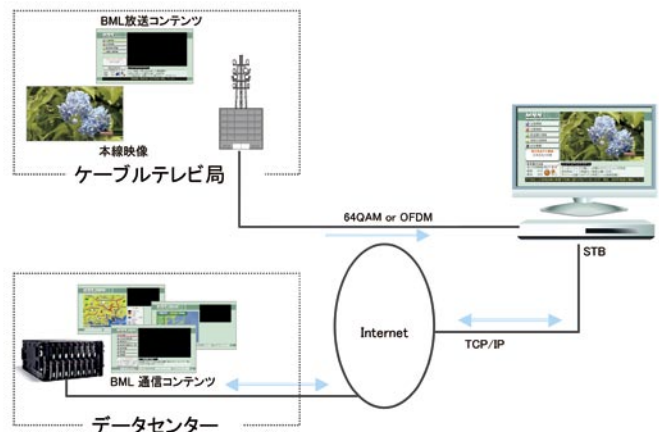
『自主データ放送』を利用すれば、コミュニティーチャンネル(コミチャン)のパワーアップを図ることができます。コミチャンにチャンネルを合わせると、自動的に『自主データ放送』画面が立ち上がるよう設定しておくことができます。そのトップ画面から天気情報を確認するもよし、交通情報を確認するもよし、もしくは、データ放送画面を非表示にして本線番組を楽しむことも簡単にできるわけです。

このトップ画面作戦により、すべての視聴者がトップ画面を経由して好みの情報を選択するようになり、トップ画面の「ポータル化」ができるわけです。検索サイトのようなポータル展開によって、地域情報の提供が効果的に行え、さらなるビジネスへの展開へつなげると考えられます。(このトップ画面作戦はDataCaster Suiteのオプションにて対応可能です)

リモコンの「dボタン」を押すだけで



## 自主データ放送の基本構成

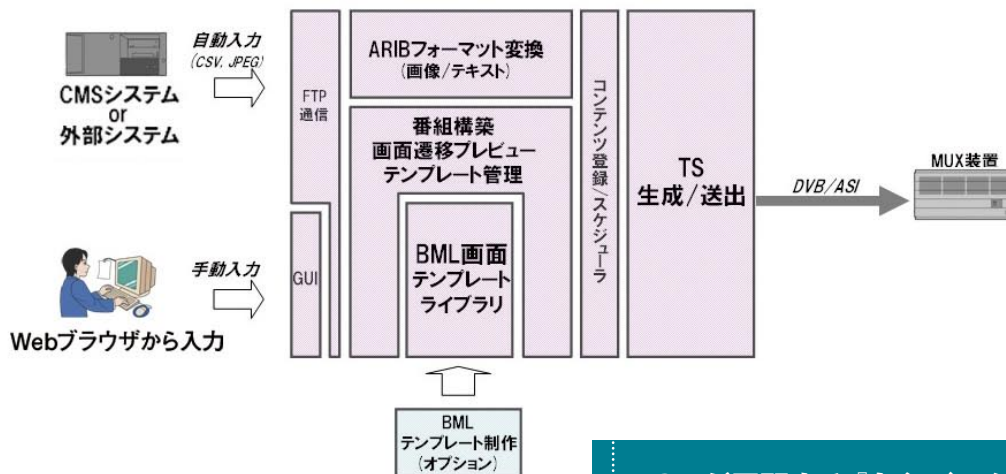


## コミチャンのトップ画面をポータル化



# 『自主データ放送』実施に必要な “3つのシステム”とは

「DataCaster-Suite」機能構成



データ放送を提供するためには、大きく3つのシステムが必要です。

- 1 外部システム等から送られてくる情報(テキスト・画像)を受信、ARIB規格フォーマットへ変換して、BML画面テンプレートへ合成するコンテンツ更新システム
- 2 実際のデータ放送画面を構成するBML\*1画面テンプレートの制作作業と動作検証
- 3 データ放送の伝送方式であるカラーセル化とTS化を行うTS\*2生成装置

これら3つのシステムを同時に導入するとコスト面が大きな課題となります。また、導入したとしてもBML画面コンテンツの制作など、作業面・運用面での不安が出てきます。

そこで(株)メディアキャストは、それら3システムを1つに統合し、しかも容易に制作・運用ができる自主データ放送システム「DataCaster-Suite」を開発しました。

既存のCMSなどを活用できるため、ネットコンテンツとの連動もできます。もちろん、データ放送のみ提供する固有情報を出力するための専用システムで対応することも可能です。

導入コスト面でも従来の約1/3程度に抑えることを実現し、デジタル放送時代を迎えて新たな展開を考えているケーブルテレビ事業者にとって、『自主データ放送』サービスを選択する上で最適な機能を備えたシステムと言えるでしょう。

\*1 BML：データ放送用のページ記述言語で、デジタル放送対応のテレビには、BMLで記述されたコンテンツを再生する「BMLブラウザ」が内蔵されている。  
\*2 TS (トランスポート・ストリーム)：デジタル放送の映像や音声、データなどを共通の信号として扱い、1つのストリームとして伝送するもの。

## RCNが展開する『自主データ放送』と好評のサービス例

福井県敦賀市を拠点に、市内の世帯普及率100%近い嶺南ケーブルネットワーク (RCN) は昨年7月から自主データ放送を開始している。提供する情報は暮らしに役立つ情報や知りたい情報、行政情報やエンタテインメントな情報まで、約40近いコンテンツとなっている。

これらの情報は自社のポータルサイトのほか、市役所や学校、消防・警察などの公共機関や地区自治会などの連携を密にとり実現している。

特徴的なコンテンツは「回覧板」。これは地区自治会や公民館、学校、幼稚園、保育園など各拠点から入力された各種情報をリアルタイムでデータ放送に反映。放送ではできなかった、ごく小さなコミュニティの情報を必要とする人に配信している。

また、ユニークなサービスは「メール受信サービス」。モデム内蔵STBの加入者にはメールアドレスが1つ無料で与えられる。そのアドレスへPCや携帯からメールを送ると、テレビでメールを受信できることになる。またSTBから発信もできる。PCや携帯電話が苦手な年配者も孫などからメールを受け取ることができ、好評だという。



## (株)メディアキャスト 杉本孝浩代表取締役役に聞く 「データ放送サービス開始のポイント」

デジタルデータ放送のソフトウェア開発・販売、受注開発で放送業界から圧倒的な信頼を得る(株)メディアキャスト。業界唯一のデータ放送専門会社として数多くのサポートを担ってきた杉本孝浩代表取締役役に、「DataCaster-Suite」によるサービス開始のためのポイントを聞いた。

### 容易にデータ放送を実現する ケーブルテレビ専用の 「DataCaster-Suite」

——「DataCaster-Suite」の特徴は？

**杉本** データ放送に必要なすべての機能(コンテンツ更新、BML画面テンプレート、TS生成送出機能)を搭載し、難解なデジタル放送技術規定や専門知識を要することなく、Webブラウザ(Internet Explorer)によるわかりやすい操作で、自主データ放送の運用ができる「オールインワンシステム」で、弊社のBSや地上デジタル放送で積み重ねた経験とノウハウが活かされています。

最大の特徴は、データ放送サービスに必要なオーサリング済みテンプレート集「画面テンプレートライブラリー」の搭載です。これまでのノウハウを結集した豊富なライブラリーは、単にBML画面制作のプログラミングを省略するというのではなく、各事業者が提供されるサービスの具体的なイメージを広げる有効なツールとしても機能

します。

——画面制作から配信に至る作業での特徴は？

**杉本** 制作で最も難関とされるのは、限られたデータ放送帯域に効率的にデータ容量を割り当てる「コンテンツ帯域設計」作業です。この作業を気にすることなく、ドラッグ&ドロップの直感的な操作で番組設計ができるツールを実装しています。これにより、ともすれば敬遠される要因となる「技術的なハードル」を大幅に下げることができました。またデータ放送では、必須であり最も高価であったカラーセル化とTS化機能をシステム内に搭載することにより、システム全体のコストダウンを図っています。

しかも外部システムとの親和性を重視しており、例えば入力部ではコンテンツサーバやCMSシステムから情報を取り込めるようにするなど、とにかく「安価で使いやすい」を心がけて開発したケーブルテレビ様向けの自主データ放送システムです。



### サービスの準備に 必要なポイント

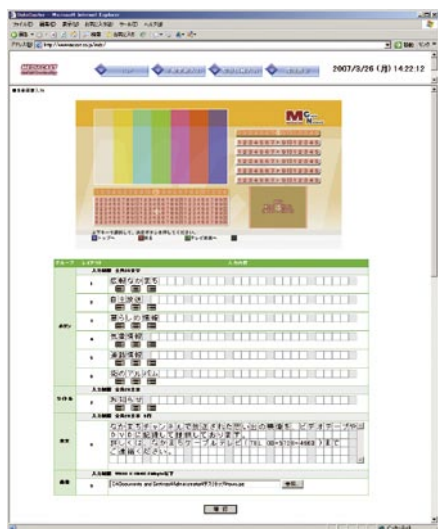
——サービスを始めるためのアドバイスと、メディアキャストの支援について。

**杉本** 設備を先に入れてから「こんなサービスを提供したい」と考えるのではなく、先にサービス内容をイメージし、それを実現できる設備を導入することが大事です。

そして実際に必要となるのは、「コンテンツの収集」です。地域行政、交通、防災、学校、行事、回覧、店舗、ごみカレンダーなどの最新内容を常に把握できるよう、地元の関係各所との調整を行うことが最も重要な作業となります。

また、将来の展開を描いた上で運用を行っていくことも大事です。そのためには可能な限り自社(または地元)で運営することであり、またノウハウを蓄積した上で、BMLの画面コンテンツを自社制作できるようになるまで発展させる、という目標を設定することが求められます。

メディアキャストでは、「DataCaster」シリーズとして、コンテンツ自由度が高く拡張性に富んだ「DataCaster-Professional」、センター配信型利用ができる「DataCaster-Enterprise」を用意し、新しいサービス展開に連動して拡張できるようにしています。MM



すぐに使えるオーサリング済みテンプレート集を搭載

手動の情報入力は「インターネット・エクスプローラー」(IE)からテキストを入力